

平成18年度 分野チェックリスト

分野名	健康・福祉分野		分野番号	3
分野担当部	保健福祉部	関連部	政策経営部、環境清掃部	

杉並区政チェックリスト(政策指標)の変化

番号	指標名	単位	指標値			目標値	
			15年度	16年度	17年度	22	年度末
1	国保加入者一人あたりの医療給付費(地域差指数)	%	0.928	0.933		減少させる	
2	公共施設バリアフリー度	%	35.8	45.3	45.9	60.0	
3	特別養護老人ホーム入所者平均待機期間	月	1年4ヵ月	1年3ヵ月	1年1か月	6ヶ月以内	
4	高齢者で生きがいを感じている人の割合	%	79.8	79.5	78.3	83	
5	保育園待機児童数	人	151	98	46	0	

指標の状況、定義は裏面をご覧ください。

杉並区政チェックリスト(政策指標)の変化の状況(分析)

- 杉並区は、後期高齢者の割合が高いこともあり、国保一人当たりの医療給付費は上昇傾向にあるが、23区においては最も低い順位を維持している。今後、増加する医療給付費の適正化を図るため、予防重視の観点からメタボリックシンドロームを焦点とした生活習慣病対策に重点をおき、衛生部門との連携を図りながら、医療データ(画像レセプト)を効果的に活用し、中長期的に医療費の伸びを抑制する。
- 既存施設のスロープ、障害者トイレが整備されたことにより、指標値は僅かながら高くなった。ただし、施設の種類によって整備の優先項目が異なることや区立施設の民間委託が進むことにより、指標値の明確な目標設定は難しい。今後は、適切な指標について明確にしていく。
- 特別養護老人ホームの入所者平均待機期間は、特別養護老人ホームのほか介護強化型ケアハウスや認知症高齢者グループホーム等「入所型介護施設」を総合的に整備し、また、15年10月から入所指針により真に入所を必要な方が入所出来るよう変更したため、16・17年度と減少傾向となった。
- 高齢者で生きがいを感じている人の割合は、ほぼ横ばいであった。16年度の杉並区高齢者実態調査によれば、回答者の53.5%以上の高齢者が主な収入源を公的年金等としているが、その年金制度の改正などによる心のゆとり感の減少が、生きがい感を阻害する要因となっていることが考えられる。一方、高齢者が何に生きがいを感じているかの調査結果では、「友人知人との食事や雑談」、「個人が行う趣味の活動」の割合が高い点から、今後も、ゆうゆう館の協働事業をはじめ、高齢者の生きがい対策につながる事業を、地域で活動するNPO法人との協働で推進し、目標達成に努めていく。
- 認可保育所、認証保育所等の入所定員数は、17年度中175人分拡大した(5,103人 5,278人:3.4%増)。また、待機児童数は、52名減少(98名 46名)したものの保育需要は、引き続き高い水準にある。なお、対象となる就学前の児童数は、ほぼ横ばい(19,739 19,634:105名減)であった。

チェックリストの状況(参考)

番号	名称	関連データ(他自治体との比較等)
	定義	
1	国民健康保険一人当たり医療費	平成16年度実績では、杉並区の地域差指数は0.933と23区で最も低い数値を示している。一般被保険者のみで見ても0.892と23区で1番、老人保健医療費拠出金ベースでは、1.017で新宿区について2番目を位置している。また、10万人を超える被保険者数を有する多摩地区と比較すると、被保険者数が約19万人の八王子市の地域差指数は0.957、同じく約14万人の町田市は0.938である。
	国民健康保険一人あたり医療給付費 (地域差指数 = 全国平均を1とする) (計算式) = 実績給付費(一般被保険者の給付費 + 老人保健医療費拠出金) / 基準給付費(全国平均一人あたり医療給付費から得た給付費 + 基準老人保健医療費拠出金)	
2	公共施設のバリアフリー度	○同様な定義を用いている自治体はないので、他自治体との比較は困難。 ○区立施設は、不特定多数が利用する施設(体育館、敬老会館、児童館、集会施設等)のみを対象とした。 ○スロープ:131/170 = 77.1%、自動ドア:99/170 = 58.2%、障害者トイレ:102/170 = 60.0%。その他の事項の整備状況は「いってきまっぴホームページ」で公開・更新している。
	公共施設(区立施設)において、スロープ・自動ドア・障害者用トイレの全てを備えている建物	
3	特別養護老人ホームの入所者平均待機期間	定義も含めて公表している自治体はないため、比較は困難。
	特別養護老人ホームに入所した人のうち、申し込みから入所までに要した待機期間の平均月数。ただし、14年度までは、原則として、申込み順となっている。	
4	高齢者で生きがいを感じている人の割合	高齢者実態調査と同様の調査を実施している自治体はあるが、普段の1日の過ごし方、平日の過ごし方等のとらえ方をしており比較対照ができない。 高齢社会白書(平成17年版):高齢社会対策基本法に基づき、毎年政府が国会に提出している年次報告書 生きがい(喜びや楽しみ)を感じている」と答えたものの割合 ・・・81.7% なお、高齢社会白書(平成18年版)には同様の内容がない。
	65歳以上のうち「あなたは、いま生きがいを感じていますか」に「はい」と回答した人の割合	
5	保育園待機児童数	東京都23区:2,674名(平成18年4月1日現在)
	翌年度4月1日の待機児童数	
特記事項		